

8つに厳選!

マーケットに関する  
お客様からの質問には  
こうアドバイスする



マーケットに関する質問で多いとされる8つを取り上げ、アドバイスのポイントを解説する。

- ①～⑥ 内山貴博 内山FP総合事務所代表取締役
- ⑦⑧ 藤原久敏 藤原FP事務所/  
藤原アセットプランニング合同会社代表

質問 1

再び円安に  
なったようだけど  
この先どうなるの?



再

び円安が進行している(7月12日時点)。昨年

10月にドル円が152円台に迫る中、日銀が為替介入を行ったこともあり、今年はじめには1ドル130円前後まで下落し、円安に歯止めがかかったかに思われた。

しかし、その後は再び円安が進行。6月30日、ドル円は7カ月半ぶりに1ドル145円台に乗せ、円安をけん制する要人発言も相次いだ。

4月に就任した日銀の植田新総裁による金融政策修正への期待が高まったが、幾度となく金融緩和策を維持する方針を示したことで、主要通貨との金利差が意識され、対ユ

ロや対豪ドルでも円が弱含む展開となっている。

また、米国は「利上げ打ち止め」と見る向きもあった中、パウエルFRB議長の議会証言で年内さらに利上げを行う公算が高まったことも、ドル買い・円売りに拍車をかける格好となった。しばらくは円安基調が続くだろう。

物価高への対応も  
円安に影響

日銀の対応も注視したい。日銀が掲げる「物価上昇2%」は1年以上続いてはいるが、植田総裁は現在の物価上昇はコスト・プッシュ型で一時的なものであり、持続的・

質問 2

日本の株価が好調なのはなぜ?  
この先どうなるの?



日

本の株価は今年に入り好調だ。7月3日には一時、1990年7月24日以来の高水準となり(東証株価指数)、取引時間中としてバブル後の最高値を更新した。その要因の1つが、「PBR(株価純資産倍率) 1倍割れ企業」への対応だろう。日本は海外市場に比べ、圧倒的にPBR1倍割れ企業が多い。

PBR1倍割れは1株あたりの純資産よりも株価が低い状態だ。仮に1株あたりの純資産が500円であれば、理論上、会社が解散した際に株主に500円が戻ってくることになる。

だが、PBR1倍割れの状態だと、株式市場では400円で取引されているという状

況にある。

日本はこうした状況が長年続いてきたが、東京証券取引所が異例の改善要請を行った。このことが、それぞれの資本効率や収益性が改善するという期待感につながり、堅調な株式市場を支えている。

PBR1倍割れを象徴するセクターの1つでもあった商社株は、米投資会社バークシャー・ハザウェイを率いる著名投資家のウォーレン・ Buffett氏が三菱商事など5大商社株を買増ししていることを発表。さらに保有比率を高めるという方針も伝わり、商社株に買いが集中した。

コロナ禍からの経済再開が後押しとなって、三菱商事・三井物産がそれぞれ当期純利

円安による影響も  
好調を後押し

益で初の1兆円突破と好調を維持していることもあり、海外投資家から一段と注目される水準まで買われている。

日経平均はバブル崩壊後30年ぶりの高値水準にあり、割高感への警戒もあるが、円安が進んでいることもあって、海外投資家がドル建てで日経平均を見た場合、S&P500をはじめ主要株価指数と比べまだ割安感がある。

円安によるインバウンド需要も高まっており、今後は企業業績を見極めながら、一段と上値を試す局面も十分にありうるだろう。

「こうアドバイスしよう」

「日銀の金融緩和と政策の継続スタンスを受け、一段と円安が進行しています。6月下旬、鈴木財務相や松野官房長官から円安をけん制する発言もあり、今後は介入への警戒感から神経質な展開になりそうです。日銀の物価高への対応も、いままま様子見モードが続けば、さらなる円安進行の可能性ががあります」

「こうアドバイスしよう」

「好調な理由は、東証のPBR1倍割れ企業への改善要請や、バフェット氏の『5大商社株へ投資比率を増やす』という発言など、好材料が相次いでいるためです。円安で海外投資家から見て割安であることも追い風になっています。ただ、金融政策次第では株が売られやすくなるため、その点は注視しましょう」